

みんなにやさしいバイオの夢



Report

第10期 年次報告書

平成18年8月1日から平成19年7月31日まで

Pharma Foods

株式会社ファーマフーズ

証券コード：2929

## 株主の皆様へ



代表取締役社長 金 武祚

### \*1年を振り返って

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当期におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加、雇用情勢の持ち直しなど、景気回復基調がみられたものの、原油価格の高騰や年金問題等による個人消費への影響などにより今後の動向に不透明感を残すものでありました。

当社を取り巻く食品市場におきましても、原料コストの上昇や価格競争等により市場全体が伸び悩む状況にあります。

このような厳しい経営環境下において当社では、営業面で当社素材PHARMA GABA™が米国FDAのGRASを取得、その成果をもとに米国飲料メーカーのジョーンズ・ソーダ社との業務提携を締結しました。また、焼津水産化学工業との業務提携を締結し、中国での機能性素材の製造と販売の展開を進めました。次に開発面では新本社研究所のオープンや、バイオメディカル部門の事業展開として関連会社・株式会社広島バイオメディカルを設立するなどの一定の実績をみました。

### \*当期の業績について

当期の業績は、納品時期のずれによる売上計画の変更等から売上高が前期比92百万円減少の1,107百万円となり、売上総利益が前期比38百万円減少の656百万円となりました。費用面では研究開発体制や販売体制の拡充を目的とした人員の増加や、新本社研究所等に係る減価償却費の増加もあり、販売費及び一般管理費が前期比297百万円増加の818百万円となったことから、営業損失162百万円(前期は営業利益173百万円)となりました。また、助成金事業の実施による収入等の営業外収益を得たこと等から、経常損失118百万円(前期は経常利益184百万円)となりました。特別損益では、韓国の子会社の株式を売却したことに伴う特別利益2百万円等を計上いたしました結果、まことに遺憾ながら当期純損失129百万円(前期は当期純利益105百万円)となりました。

## 企業理念

### Pharma foods 「医薬」(Pharmaceuticals) と「食」(Foods) の融合

身近な食品から得られる安全で安心なバイオ素材を開発し、やさしいバイオテクノロジーの実現を図ることにより、「健康と長寿」に貢献する。

### Live together (共栄・共存)

あらゆる個性が共に生き・共に支えあい・共に栄えるパートナーシップを構築する。

### Multi culture (多文化企業)

異文化の共存と交流、伝統文化と先進科学の統合を通じて新たな価値を創造する。

### \* 次期の事業方針について

次期の事業方針については、当期の経営を反省し、早期での業績回復を図りながら、一層の成長性確保のための戦略を営業・開発の両面で実施してまいります。

#### (海外営業)

海外営業では、米国でのGRAS取得に引き続いて、中国・中近東での食品素材としての許可取得もすすめ、新たな市場開拓を図っております。また、韓国でも、既に今秋からの韓国大手乳業メーカーでの新製品への鶏卵抗体の採用が決定しております。

#### (国内営業)

国内営業については、今夏になり飲料メーカー・菓子メーカー等より新製品が順次発売されるなどの実績をみており、次期では通年での業績寄与が期待できます。また、平成19年7月期に卵白ペプチド・ランペップを新たに発売、葉酸たまごも製品ラインアップを拡充させるなどの対策を実施しており、次期よりの収益貢献を目指してまいります。

#### (開発)

研究開発事業は当社事業の根幹であり、現在・将来の当社収益の源泉と考えており、次期についても、本社研究所、京阪奈研究所、関連会社である株式会社広島バイオメディカルの3つの研究開発拠点により、現状の基盤収益源である機能性食品分野の拡大と検査薬・医療食・メディカルデバイス製品などの次世代製品の研究開発事業の進展を図ってまいります。

株主の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

平成19年10月

#### 【用語解説】

FDA ……アメリカ・食品医薬品局のことでFood and Drug Administrationの略。食品や医薬品を管轄するアメリカの政府機関。日本では厚生労働省に相当。

GRAS ……Generally Recognised As Safe の略。「(食品などに用いる上で)一般に安全と認められるもの」の意。FDAの指定する専門機関による認可制度。

# 次世代製品開発事業

バイオメディカル部門では次世代製品の開発事業として、①検査薬・診断薬分野、②医療食分野、③メディカルデバイス製品・医薬品分野の3分野での研究開発を実施しております。平成18年8月をスタートとして、それぞれ3年間から8年間での開発を目指しています。

## ①検査薬・診断薬分野

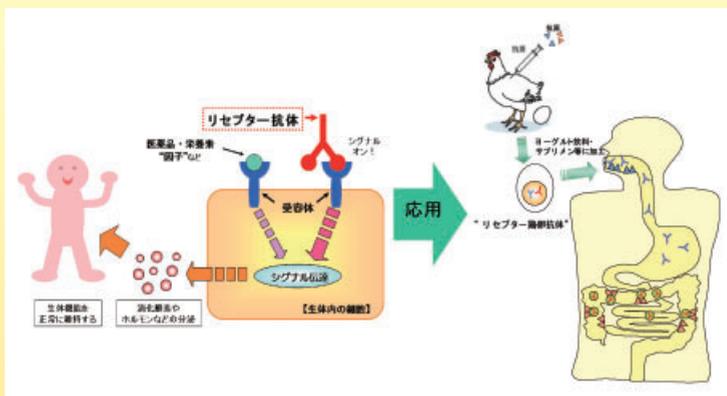
鶏卵抗体を用いた検査薬・診断薬の開発については、唾液を用いた簡易診断キットと、広島バイオメディカルでのモノクローナル抗体を用いた試薬・診断薬の事業展開を図ります。既に試薬・診断薬については、実用化技術が完了しており、早期での販売実績を目指します。

## ②医療食分野(リセプター抗体)

複数のリセプター(受容体)に対する抗体の検討をしております。リセプターの特定部位にのみ強い活性をもつ抗体をつくるため、抗原となるリセプターの探索や抗原の作成を実施しております。(下図をご参照下さい)

## ③メディカルデバイス製品分野

血液浄化システムについて、血中成分の調査から具体的な血液中での免疫反応による異物・不要物除去の効果等の実用化に向けた基礎研究を実施しています。



リセプター抗体イメージ図

### 【用語解説】

モノクローナル(抗体)・・・免疫作用として、体内に進入してくる病原菌等の抗原に対しては、たとえ同じ抗原を認識する抗体を集めたとしても、抗原のいろいろな部位を認識する抗体が混ざった状態で集められる。このように同一でない抗体が多数混ざっている集合体をポリクローナル抗体(ポリ=「多くの」の意)という。それに対し、均一の抗体をモノクローナル抗体(モノ=「ひとつの」の意)という。

## トピックス

### 米国のFDAによる、食品素材安全認可制度GRAS取得

平成19年6月、当社製品PHARMA GABA™が、米国のFDAが定めるSelf-Affirmed GRASを取得いたしました。食品等の分野でのGABA素材のGRAS取得はPHARMA GABA™が最初であり、Self-Affirmed GRASを取得することによって、PHARMA GABA™をアメリカの各食品会社に対して食品素材として販売することが可能となりました。

これにより同年6月、米国ジョーンズ・ソーダ社と業務提携を締結いたしました。米国内での一層の売上拡大を目指しております。

### ファーマギャバ®が北米メーカーのサプリメントに採用

当社製品のPHARMA GABA™がNatural Factors Nutritional Products Ltd.のサプリメントに採用され、「PharmaGABA」として北米で販売されました。

当社の海外営業の一環として、アメリカでのビジネスが展開し、サプリメント用途として販売が開始されたものです。これまで、アメリカ・アナハイム等で実施されている展示会に出展する等のマーケット展開を行っておりましたが、その成果としてアメリカ市場としては初めて機能性食品会社で採用されました。



## 株式会社広島バイオメディカル設立

平成19年4月に広島大学大学院生物圏科学研究科・松田治男教授との共同出資による新会社「株式会社広島バイオメディカル」を設立しました。

広島バイオメディカルでは鶏卵抗体のモノクローナル化・ヒト化技術、トランスジェニックチキン技術を応用した血液浄化療法分野への本格的進出とモノクローナル抗体を用いた検査薬・試薬分野への事業展開を目指しています。

当社では検査薬・医療食・メディカルデバイス製品などの次世代製品の開発を進めておりますが、広島バイオメディカルの設立により一層の早期事業化を図っています。



広島バイオメディカル (広島大学VIO棟)

## 女性のための機能性卵「葉酸たまご」

「葉酸たまご」は、当社のバイオ技術により葉酸が通常卵の約3倍含有する機能性卵です。また、農林水産省から「平成17年度 地域食料産業等再生のための研究開発等支援事業」に係る補助金を得て開発を行い、現在では「栄養機能食品※」として販売しております。

葉酸は水溶性ビタミン(B群)の一種で、近年、海外では葉酸と胎児の健全な発育についての重要性が認識されており、アメリカ等では国が推奨葉酸摂取量を増やしたことにより、胎児の先天性脊椎障害である「二分脊椎」の発生率が減少していると報告されております。現在、「葉酸たまご」は関東地区ではナチュラルローソン、西武百貨店(渋谷)等、関西地区では阪急百貨店グループ(百貨店、スーパー(オアシス、ファミリーストア))等、通信販売では葉酸たまご本舗(楽天)にて販売され、TVや新聞等でも取りあげられ好評を博しております。

※栄養機能食品…厚生労働省が定めている健康の維持等に必要な栄養成分(ミネラル、ビタミン)の補給を主な目的として、摂取する人に対して、特定の栄養成分を含むものとして、定められた基準に従ってその栄養成分について機能の表示をしている食品。



## 卵黄ペプチド(製品名:ボーンペップ Bonepep®)の展開

ボーンペップは骨の成長に関わる素材として開発し、現在サプリメントやヨーグルト用途として採用されております。ロート製薬株式会社から発売されている新製品「セノビック」にも採用されております。「セノビック」は、ロートリサーチビルディング内に開設した京阪奈研究所の共同研究第1号の製品です。

## ギャバ・ストレス研究センターを応援

平成18年11月1日に横越英彦氏(静岡県立大学教授/農学博士、ギャバ・ストレス研究センター代表)、古賀良彦氏(杏林大学教授/医学博士、ギャバ・ストレス研究センター参画者)等によりギャバ・ストレス研究センターが設立されました。

当社では、ファーマギャバ®を平成13年9月の発売以降、多くの食品メーカーで採用いただいております。ギャバに関する機能性の研究開発の実施や、抗ストレス効果・リラックス効果等についての各種学会や論文投稿等の活動を行っております。

それら事業の一環として、当社ではギャバ・ストレス研究センターを応援しております。

ギャバ・ストレス研究センターHP <http://www.gabastress.jp/>

## 研究成果の発表

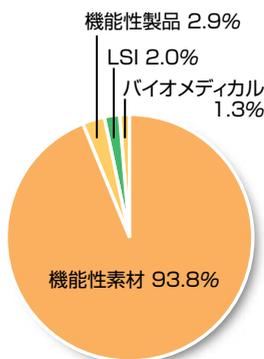
研究開発事業の一環として、その成果について平成13年度より日本農芸化学会等で学術発表を行っております。本年の主な発表は次のとおりです。

- 日本農芸化学会2007年度大会「GABA配合機能性飲料による心身疲労軽減効果(静岡県大食栄科、コカ・コーラ東京研究開発センター等との共同発表)」等、全5題。
- 第61回日本栄養・食糧学会大会「暑熱環境下における運動能に及ぼすGABA飲料の効果(JT等との共同発表)」等、全8題。

## 部門別概況

### 機能性素材部門

食品分野を中心として鶏卵抗体 (IgY)、ギャバ (GABA、γ-アミノ酪酸、製品名：ファーマギャバ®)、ボーンペップ (Bonepep®、卵黄ペプチド)、葉酸たまご等各種の機能性素材を販売しております。



### 機能性製品部門

機能性食品を中心とした素材の研究開発の応用として、素材開発技術をベースに、消費者向け最終商品の企画・販売を行っております。

### バイオメディカル部門

研究開発・技術主導型のバイオベンチャーとして機能性素材全般に関わる研究開発をすすめる中で、当社のそれら基本技術、特に鶏卵抗体の技術に着目し検査薬・医療食・メディカルデバイス製品等の次世代製品の開発をすすめており、食品・製薬メーカーとの間での共同研究等による研究受託を行っております。

### LSI (Life Science Information) 部門

飲料メーカー・食品メーカー等からのヒトボランティア試験の受託研究や成分分析の受託業務等を実施しております。

## 財務情報

### 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当期 (平成19年7月31日現在)	前期 (平成18年7月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>2,027,887</b>	<b>2,714,730</b>
現金及び預金	963,397	2,323,073
受取手形及び売掛金	369,482	224,167
有価証券	499,604	-
たな卸資産	98,094	121,349
その他	103,969	47,933
貸倒引当金	△6,659	△1,792
<b>固定資産</b>	<b>1,210,347</b>	<b>765,830</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,014,365</b>	<b>751,634</b>
建物	461,658	43,629
工具、器具及び備品	99,445	52,393
土地	423,564	421,281
建設仮勘定	-	229,542
その他	29,697	4,787
<b>無形固定資産</b>	<b>1,076</b>	<b>213</b>
特許権	300	-
その他	776	213
<b>投資その他の資産</b>	<b>194,904</b>	<b>13,982</b>
投資有価証券	168,276	1,000
関係会社株式	7,962	7,656
その他	18,666	5,326
<b>資産合計</b>	<b>3,238,235</b>	<b>3,480,561</b>
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>173,943</b>	<b>228,031</b>
支払手形及び買掛金	84,955	54,833
未払金	25,902	16,055
未払法人税等	2,214	84,194
その他	60,871	72,947
<b>固定負債</b>	<b>86,880</b>	<b>118,440</b>
長期借入金	86,880	118,440
<b>負債合計</b>	<b>260,823</b>	<b>346,471</b>
<b>(純資産の部)</b>		
<b>株主資本</b>	<b>3,010,815</b>	<b>3,134,046</b>
資本金	1,563,299	1,556,659
資本剰余金	1,415,003	1,415,003
利益剰余金	32,512	162,383
評価・換算差額等	△33,408	-
新株予約権	4	44
<b>純資産合計</b>	<b>2,977,411</b>	<b>3,134,090</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>3,238,235</b>	<b>3,480,561</b>

## 損益計算書

(単位:千円)

科 目	当期	前期
	(平成18年8月1日から 平成19年7月31日まで)	(平成17年8月1日から 平成18年7月31日まで)
売上高	1,107,848	1,200,339
売上原価	451,705	505,688
売上総利益	656,142	694,651
販売費及び一般管理費	818,449	521,089
営業利益又は営業損失(△)	△162,306	173,561
営業外収益	52,842	41,858
営業外費用	9,267	30,826
経常利益又は経常損失(△)	△118,731	184,593
特別利益	2,879	507
特別損失	126	12,000
税引前当期純利益又は純損失(△)	△115,978	173,100
法人税、住民税及び事業税	4,634	83,252
法人税等調整額	9,257	△15,712
当期純利益又は純損失(△)	△129,870	105,560

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当期	前期
	(平成18年8月1日から 平成19年7月31日まで)	(平成17年8月1日から 平成18年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△288,887	343,664
投資活動によるキャッシュ・フロー	△546,401	△660,407
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25,205	2,018,068
現金及び現金同等物の増加額	△860,494	1,701,325
現金及び現金同等物の期首残高	2,318,056	616,730
現金及び現金同等物の期末残高	1,457,561	2,318,056

## 株主資本等変動計算書 (平成18年8月1日から平成19年7月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本						評価・換算差額等			新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計			
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益剰余金 別途積立金	利益 剰余金 合計						
平成18年7月31日 残高	1,556,659	1,415,003	1,415,003	30,000	132,383	162,383	3,134,046	—	—	44	3,134,090
事業年度中の変動額											
新株の発行	6,640						6,640				6,640
当期純損失					△129,870	△129,870	△129,870				△129,870
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)								△33,408	△33,408	△40	△33,448
事業年度中の変動額合計	6,640	—	—	—	△129,870	△129,870	△123,230	△33,408	△33,408	△40	△156,678
平成19年7月31日 残高	1,563,299	1,415,003	1,415,003	30,000	2,512	32,512	3,010,815	△33,408	△33,408	4	2,977,411

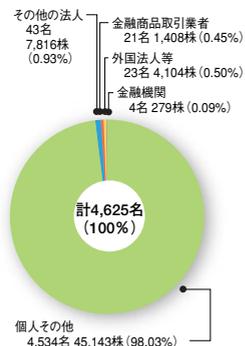
# 株式情報

## 株式情報 (平成19年7月31日現在)

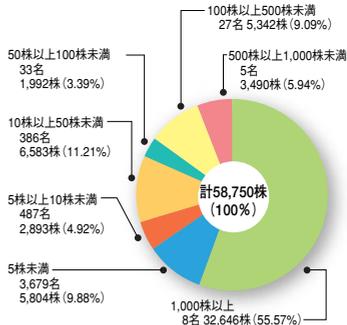
- 発行可能株式総数 172,000株
- 発行済株式の総数 58,750株
- 株主数 4,625名
- 発行済株式の総数の10分の1以上の数の株式を保有する株主の状況

株主名	持株数	出資比率
金武社	17,900株	30.46%

### 所有者別株式分布状況



### 所有株式数別株式分布状況



## URL

当社に関する情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.pharmafoods.co.jp>



## 株主優待制度のご案内

毎年7月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された1株以上保有の株主様に対し、毎年10月下旬に対象株主様お一人につき1,000円相当の当社関連製品を贈呈いたします。

# 会社概要



## 会社概要

- 社 名 株式会社ファーマフーズ
  - 本 社 事 務 所 〒615-8245 京都市西京区御陵大原1番地49
  - 電 話 TEL. 075-394-8600
  - 設 立 平成9年9月12日
  - 資 本 金 156,329万円 (平成19年7月31日現在)
  - 従 業 員 数 74名 (平成19年7月31日現在)
  - 主要な事業内容 機能性食品素材の開発・販売
  - 主要な事業所 東京事務所
  - 役 員 (平成19年7月31日現在)
- |                     |       |   |   |
|---------------------|-------|---|---|
| 代 表 取 締 役 社 長       | 金     | 武 | 祐 |
| 常 務 取 締 役 営 業 部 部 長 | 中 川   | 紀 | 子 |
| 常 務 取 締 役 総 務 部 部 長 | 上 野   | 竹 | 生 |
| 取 締 役 バイオメディカル部 部 長 | 伊 井 野 | 貴 | 史 |
| 取 締 役 生 産 技 術 部 部 長 | 橋 高   | 隆 | 一 |
| 取 締 役               | 高     | 義 | 璦 |
| 常 勤 監 査 役           | 東 口   | 伸 | 二 |
| 監 査 役               | 津 田   | 盛 | 也 |
| 監 査 役               | 太 田   | 重 | 夫 |

# 株主メモ

- 事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで
- 定時株主総会 毎年10月
- 基準日 定時株主総会の議決権 毎年7月31日  
期末配当 毎年7月31日  
中間配当 毎年1月31日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話0120-094-777 (通話料無料)
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店  
○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話及びインターネットでも24時間承っております。  
電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 公告の方法 日本経済新聞に掲載いたします。

株主さま向け  
アンケート

株主の皆さまの声を  
お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード  
○○○○

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより  
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも  
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年12月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エー・メディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エー・メディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料として2009年使用させていただきます。事後の承認なくこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com